

木質バイオマス利用のための チップ燃料低コスト供給システムの開発について

1 中核機関・研究総括者
岩手県林業技術センター
東野 正

2 研究期間
2003～2005年度（3年間）

3 研究目的

未利用木質資源等の木質バイオマス資源の有効利用方法として、岩手県では燃料用チップの直接燃焼による熱利用を推進している。木質バイオマス熱利用のさらなる推進のために、未利用資源の収集、チップ生産、チップボイラー施設への運搬並びにストックヤードにおける中間処理等の実証試験を行うことにより、燃料用チップの供給システムを確立する。

4 研究内容及び実施体制

燃料用チップ生産方法の実証（岩手県林業技術センター、（有）二和木材）
チップ化の諸条件の解明と燃料利用の適性評価を行う。

燃料用チップ生産の経済性評価を行う。

燃料用チップ運搬方法の実証（岩手県林業技術センター、（有）二和木材）
輸送方法別の燃料用チップ輸送コストを解明する。

燃料用チップの運搬システムを開発する。

燃料用チップ供給指針の策定（岩手県林業技術センター、（有）二和木材）
燃料用チップ供給システムのマニュアルを策定する。

素材生産現場における低質材や未利用木質資源をチップ化处理し、燃料として供給する作業システムを実証する。

5 目標とする成果

燃料用チップの供給先であるチップボイラーは、2003年度以降盛岡地区を中心に県内複数箇所に導入される予定であることから、それらへのチップ供給をモデル的に行うことにより、チップ燃料の低コスト供給システムを確立する。素材生産現場における生産歩留まり向上、燃料用チップ材からの収益の確保増大による森林所有者等山元への利益還元、バイオマス燃料生産供給に関わる就労機会の増大等、地域経済への波及効果が期待される。